

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆったり気分で過ごせ、明るく、楽しく生活でき、何でも話せるグループホームを「私達の思い」としている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、確認できるようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご利用者様に面会に来られて家族等、気軽に話しかけ、理解していただけるように努力している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	法人全体のイベントなどに参加していただけるよう、よびかけている。		今後の計画として、運営推進会議のメンバー構成を変更し、より地域に密着した計画を立てたいとかがえている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学生や中学生が、ボランティア活動で施設に来てくれるなど、地域の交流が少なからずある。	○	今以上に幅の広い付き合いをしたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域のふれあいデイサービスへ同行させていただき、気軽に話し合いが出来るよう、心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員でまとめるように心がけている。職員会議などで話し合いを行い、活かせる努力をしている。外部評価の結果も同様職員会議で話し合いをしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項についてその都度経過を報告しサービス内容に反映するようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は、生活保護の担当者との関係にとどまっている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ミーティング等で成年後見制度について話し、出来るだけ理解を求めているものの、職員全体にとまでは、いかない。	○	更なる勉強が必要おもわれる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	夜勤体制(時間)を変更し、日勤帯に職員の人数を増やし、見過ごさないように注意を払っている。寄り添う介護につとめ、虐待は見逃さないよう注意している。	○	高齢者虐待防止関連法について職員全員で学ぶ機会を持ちたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	プラン作成をするためにも重要と考えており、不安や疑問点に答えられるように努力している。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の言葉や態度からその思いを察する努力をし、ご利用者様本位の運営を心がけている。不安や意見などは特定の職員の中に埋もれないように、ミーティングで話し合うようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態などで変わりがあった際は、随時ご家族様へ電話連絡を行っている。面会時にも日々の様子について報告し話し合いの場を設けている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会等で、話し合いの場を設け、意見などを尋ねるようにしている。	○	ホーム独自のアンケートを実施したいと思っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を開催し、職員の意見などを聞く機会を設けている。	○	個人面談を実施する予定
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者様の自由な暮らしを出来る限り支えられるよう、ご利用様の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。また、その都度必要に応じて、柔軟に対応できるように職員の配置を考えている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご利用者様、ご家族様との信頼関係を築くためにも、今まで慣れ親しんだ職員が対応することは、大切なことであり、異動や離職がやむおえない場合も、時期や引継ぎの面で、最善の努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所以外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるように、努力している。研修報告は、職員会議で報告をしてもらっている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH定例会に参加をし、他の事業所との交流を通じて、事例検討する機会がある。事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。</p>	<p>○ 定例会へ参加を管理者のみならず、他の職員も参加させたいと考えている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレスについてアンケートを実施し、業務中に何が一番ストレスなのかを話し合いに取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談で、本人の生活状況の把握に努め、困っていること、求めていること、不安なことを理解しようと工夫している。また、本人だけではなく、ご家族様の困っていることなども理解できるよう努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談に来られるまでのご家族様の苦労や経緯について、把握できるよう、ゆっくり聞くようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人や家族の思い等を見極め、改善に向けた支援が出来るように努力している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむ終えず、すぐにサービスの利用となった場合、ご家族やそれまでかかわった関係者に来ていただくなど、ほんにんが安心して生活できるように努力している。	○	体験利用について今後検討したいと考えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様が出来ること、出来ないことを職員が把握することはもちろんのこと、支援する側、される側にとらわれないように、協力しながら支えあう関係を築けるように努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の様子や、職員の思いを伝えることで、家族と職員が協力し、本人を支えていく上で協力関係を築けるのではないかと考えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者様と、家族の新たな絆作りを目標に、交流行事などの参加を促している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院や商店へ気軽に行けるように出来る限り支援をしている。	○	ご利用者様全員が今までの関係を継続しているわけではないので、出来る限り支援を続けられるように努力していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聴き、相談に乗ったり、皆様が楽しく過ごせる環境を作れるように職員が調整役として努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	重度化により、系列の特養や老健へ異動するケースが多く、退所後も関係の継続を図れるよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声かけで、思いや希望を把握するように努めている。又ご家族様からの情報をもとに、職員間で把握するため、話し合いの場を作っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査で、本人及び家族からの聞き取りを行っている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ひとりひとりの生活リズムを理解し、日々の言動からご本人様を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者本人の希望や心身の状況の把握と検討を行い、ケアの課題を抽出するようにしている。又、検討に当たって、家族の意向も聞き、計画に反映するようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月を基本とし、計画の評価・見直しを行っている。状態に変化見れた際は、ご本人やご家族様、主治医等の関係者と話し合いの場を設け、介護計画の見直ししている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にて、ケアの内容や工夫などを記入し、情報を共有している。その内容を元に計画策定の参考にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人様やご家族様の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者様が、安心して地域での暮らしを続けられるよう、地域のボランティアにも協力を呼びかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご利用者様の希望や状況に応じて、訪問理容サービスを利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族様と協力し情報の共有に努めている。また、訪問診療に来てもらっているケースもあり、複数の医療機関と関係を密にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近くに認知症専門医があるので、認知症についての助言をもらっている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回、訪問看護による健康チェックをしている。健康状態について相談があれば連絡し、指示をもらう他、主治医との連絡調整もしてくれる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は医療機関と連絡を密にし、情報を提供している。職員も見舞うようにし、医療スタッフ及びご家族様とも情報交換し、退院の支援に結び付けている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化及び看取り介護に関する指針を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。終末期ケアの方向づけについて、家族・医師・看護師を交えて話し合いの場を持ち、共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人様・ご家族様の意向に沿うよう、医師・看護師・職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように努めていきたいと考えている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないよう情報提供し、連携を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	便球界やミーティング時に、職員の意欲向上を図っている他、日々の関わり方を職員が互いに注意しあい、ご利用者様の誇りやプライバシーを損ねない対応が出来るよう努めている。	○ 認知症の理解、接遇等の研修を積極的に取り入れる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の援助や活動の中で観察、会話、傾聴、働きかけ等に心がけ、ご本人様の希望や思いを聞き取るよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、個々のその日の体調や気分などを見極め、ご利用者様の気持ちを尊重し、出来るだけ個別性のある援助を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは、本人の着たい服を選んでもらったり、職員と一緒に考えたりと、本人の気持ちに沿った支援を心がけている。行きつけの美容院がある方は定期的に職員が付き添い行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、基本的にご利用者様と相談しながら決めるようにしている。また、片付け、配膳など参加を勧めている。	○ 押し付けにならぬよう、楽しみながら片付け等に参加していただけるよう心がけている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	各々の好きなお菓子やお酒を一緒に買い物に行き、本人の希望や様子をみながら、それらを楽しめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、その時間帯にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の入浴パターンとしているが、ご利用者様のその日の希望を確認し、入浴している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、夜間の入眠への誘導に心がけている。また、一人ひとりの体調や希望に合わせて休息がとれるように配慮している。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の心身の状況や意向を尊重し、得意分野で一人ひとりの力を出してもらえよう、生活の中での役割活動への参加を勧めている。	○	役割活動としては、洗濯物たたみ、食事の準備、片付け、草取り、掃除、花を生けるなど
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、お金を持っている方もいるが、紛失によるトラブル防止のため、事業所で管理している方がほとんどである。	○	外出時等に、自分で払っていただけるようにお金を手渡すなど工夫に努めている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や希望に応じて、散歩、買い物、外食などの支援を行っている。また、毎月の誕生会では、外食やドライブなどに出かけるように努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に合わせ、花見、ぶどう狩りなどに出かけたり、ご家族様も参加しての食事会などに取り組んでいる。	○	ご利用者様からの意見をもっと活用できるように、また、可能な範囲での家族参加のご協力を得れるよう、働きかけをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて、ご家族への電話を取り次いだり、手紙の住所部分の代筆など支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	仕事帰りやご家族様の都合のいい時間帯に、いつでも訪ねてきていただけるよう、ご家族様も気軽にきやすい雰囲気作りを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自覚のない身体拘束が行われていないか、ミーティング等でケアを振り返り、話し合いを行い、日常の見守りとケアにあたっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりの気分や状態を細かく把握し、さりげなく声をかけたり、一緒についていくなど支援しているが、一日中のカギの開放にはまだ行きついていない。	○	職員の見守り方法を徹底し、ドアに鈴をつけるなど、日中は鍵をかけないよう支援していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の様子や行動パターンの把握に努め、ご利用者様と同じ空間で作業等行いながら見守りしている。夜間は、数時間おきに様子を確認し、トイレに起きた時などすぐ対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者の状況変化によって、注意を促す、保管するなどの対応をしている。薬類は、施錠できるキャビネットに保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの活用によって、職員の共有認識を図っている。事故が起きた際は、速やかに対応・検討・報告をするよう取り組んでいる。	○	転倒、誤嚥等の対応や知識を学ぶため、勉強会を行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応についてマニュアルを整備している。	○	今後、救急救命処置の講習を行う予定。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て避難訓練を年1回行っている。	○	今後、地域住民も交えての避難訓練を行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出によるリスクに関し、入居前の相談時に説明し、理解していただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の普段の状態を職員は把握しており、変化が見られたときは、バイタルチェック・記録を行い、状況により訪問看護へ連絡し、指示を受けるよう対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルにて、職員が内容を把握できるようにしている。薬の処方や用法が変更になったときは、申し送りノートに記入し、把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操、散歩、こまめな水分補給など、自然排便できるよう取り組んでいる。	○	食物繊維の多い食材を、食事メニューに取り入れる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、就寝前は入れ歯をはずし洗浄剤につけておくなど支援をしている。また、治療を必要とする場合は歯科受診の支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材を使うように配慮し、毎月管理栄養士に食事メニューをチェックしてもらっている。食事・水分摂取量をチェック表に記入している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ご利用者様、職員共にインフルエンザ予防接種の実施。食事前、排泄後の手洗い・消毒を徹底するよう努めている。	○	感染症に関する勉強会を実施し、ご利用者様のケアに努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所周辺の衛生管理に注意を払い、まな板やスポンジ、ふきん等は毎晩漂白し、毎食使用した食器は酸性水にて消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	GHへ続く道端やベランダ前に花や野菜を植えたり、和らいだ雰囲気を作るようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダー、絵画、草花等を配置し、茶碗を洗う音、ご飯の炊けるにおいなど、五感や季節感を取り入れるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中央に談話室を設けている他、各居室前の椅子で過ごされたりと、一人、あるいは仲の良い利用者同士でくつろげるスペースをつくっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのダンスや仏壇など持参していただき、居心地のよい居室に配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に空気の入れ替えをし換気に努めている。ご利用者様の発汗や冷えに気をつけて調節している。臭気対策として、換気扇や消臭剤を使用している。	○	定期的に換気扇の点検、掃除を取り入れていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所や流し、椅子の高さなど、使いやすい環境に整える他、車椅子、シルバーカー等の歩行補助具を備えている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご利用者様にとって「わかりやすい環境とは？」を常に考え、状況によって環境の整備に努めている。	○	トイレの位置を特定できるよう、何箇所かに表示をしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、畑と一緒に草取りや収穫をしている。また、ベランダにて一緒に洗濯物を干したりと、活動参加の場としている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①	ほぼ全ての利用者の
		②	利用者の2/3くらいの
		③	利用者の1/3くらいの
		④	ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①	毎日ある
		②	数日に1回程度ある
		③	たまにある
		④	ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①	ほぼ全ての家族と
		②	家族の2/3くらいと
		③	家族の1/3くらいと
		④	ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)